

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 研究推進産学官連携機構

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	該当なし	
		達成度： 4 3 2 1
研 究	該当なし	
		達成度： 4 3 2 1
セ ン タ ー 業 務	①プロジェクト研究の推進 研究支援のため研究評価に積極的に取り組むとともに、引き続き、学内CEO研究経費の配分、研究スペースの有効活用、機器の共同利用化等の研究支援策を充実させる。また、本学の強みとなる研究領域を抽出し、戦略的、効果的に基盤となるプロジェクト研究組織をさらに、育成・支援する。	研究支援として、①全学的プロジェクト研究(拠点群)と学内プロジェクト(学内COE)の研究評価を実施支援した。また、②教育研究プログラム戦略本部の推進拠点で研究活動を展開する14名を新たに「プロジェクト研究教員」として提案し、教育研究プログラム戦略本部において認定された。また③オープンラボの使用状況の調査を行い、一層の活用を図った。 研究用機器の共同利用化の推進に向けては、④自然生命科学研究支援センターHPの改修を行った。⑤鹿田地区のオープンラボ及び「地域産学官共同研究拠点整備事業」で導入する研究用設備機器の共同利用化に向けて組織構築を支援した。 また、プロジェクト研究推進のための教員力量の基礎データを得るため、⑥本学研究者の発表論文の分析を行い、それを基に本学の強み(領域・研究者)を抽出して示した。さらに、本学の研究者が世界レベルで正確・詳細な研究情報を発信できるよう、⑦トムソンロイター社のデータベースを用いたリサーチャーIDの導入を決定し、日本で初めての学内研究者(約1400名)の一括登録を実施した。加えて、「全学的プロジェクト研究」を戦略的に推進し、支援すべき研究活動を選考する際の基礎資料とするため、⑧研究グループ登録制度を設けた。
	②若手研究者の育成支援 若手研究者を対象とした研究支援システム及び若手研究者の交流の仕組みに基づく活動を着実に実施する。また、重点研究領域における若手人材の確保に向けて、外部への最適な情報提供の方法等について検討を進めるとともに、若手研究者によるチーム研究への支援等新たな支援策を検討し、実施する。	若手研究者を対象とした研究支援システム及び若手研究者の交流の仕組みに基づく活動としては、①異分野研究連携体について連携強化に向けた指導を行った。②トップリサーチャー表彰事業については趣旨を再検討し、表彰者数の絞り込みと若手育成の見地から年齢制限の見直しを行った。③研究交流サロンへの若手、学生の参加の促進をはかった。特に提供話題に関連深い研究室には担当教員の協力を得て大学院生の参加の呼びかけを強化した。④ウーマン・テニユア・トラック教員を含めて、新たに着任した若手研究者を主な対象とした科研費補助金等外部研究資金獲得支援に向けた講習会を実施した。 若手人材確保に向けて外部への最適な情報提供方法の検討のため、⑤教育研究戦略プログラム推進本部に置かれた推進拠点の一つをモデルとして選り、海外の大学・研究機関との「人脈」に関する調査を実施し、将来的に海外人材を確保するための基礎データを整理した。 若手研究者によるチーム研究への支援等の新たな支援策として、⑥「次世代研究者・異分野融合研究連携育成事業」の成果、課題を整理するとともに、当該事業の対象を異分野連携による新しい研究課題や研究領域の発掘に絞るなど、新たな枠組みを策定した。⑦学内COE経費の一部について若手研究者支援に充てる枠組みを整備し、学内公募審査により、12名の若手研究者に各200万円を配分した。⑧医工連携研究を促すため、岡山大学病院の協力の下、若手を中心とする工学系研究者による手術現場見学(オペ室ラーニング)を3回実施した。⑨来年度実施を目指し研究グループ登録制度の検討を進めた。
	③産学官連携活動の推進 「イノベーションシステム整備事業」におけるWeb マッチングツールを活用し、中国地域の中小企業等との連携を強化するとともに、自立型の新たな産学官連携システム構築に着手する。また、研究成果の社会還元を行うため実施している知恵の見本市他展示会等への出展の効果を検証し、新たな戦略的出展と支援の仕組みを構築する	中国地域の中小企業等との連携強化に向けて、「イノベーションシステム整備事業」(さんさんコンソ)でのツールを活用しつつ、①技術開発に積極的と思われる広島県、岡山県等の中小企業を対象に、連携プロデューサーが企業を訪問し企業ニーズのヒアリングとマッチング情報の配信活動を継続中であるが、具体的な要望や技術紹介の要請が確実に増加しつつあり、これら情報を参加23校へ配信するなどを含めて連携プロデューサー活動が軌道に乗りつつある。 自立型の新たな産学官連携システム構築に向けて、②企業集団である広島501クラブや岡山88クラブなどの定例会に連携プロデューサーが参加し、さんさんコンソ活動の展示紹介活動を行った。これらの活動成果により、さんさんコンソ参加企業数が目標の500社を達成した。③企業の研究開発を支援する専門家(大学研究者)を紹介・派遣する新規のサービスを立案し、中国地域の大手企業52社へ企画書を送付した。その結果大手企業1社より依頼が有り、12/7に第1回専門家紹介事業を実施した。④4回の経営戦略講演会(6/25 デジタルミュージアム、11/12 岡山ロイヤルホテル、12/3 デジタルミュージアム、2/25 ビュアリティまきび)、3回の知財フォーラム(8/4 薬学部、8/27 本部棟6F、2/25 ビュアリティまきび)を開催した。参加者へのアンケート調査では何れの場合も好評であった。⑤バイオマス活用分野における、中国地域の研究者による成果を主対象として面的技術マップ作成を完了しHP上で公開した。⑥自立型の新たな産学官連携システム構築のため中小企業関連団体との意見交換を行った。 展示会等への出展支援については、出展支援を行う展示会の選定、出展テーマの絞り込み、出展方法などの面で戦略的な取り組みを強化し、①バイオ EXPO2010(6月、東京ビッグサイト)に研究紹介5件ならびに研究推進産学官連携機構ブースを出展した。②バイオジャパン2010(9月、パシフィック横浜)に研究紹介5件を出展した。③ナノテク2011(2月、千葉幕張)に4件の研究紹介を出展した。これらの出展時とその後接触のあった企業についてはリスト化を行い、共同研究等への展開を目指して情報提供を行うなど接触を継続中である。 さらに今年度の新たな取り組みとして、東京サテライトオフィスと連携して、本学OBの在職する企業のリスト化を進めるとともに、有力企業へ研究提案を行うための産学官連携コーディネータ訪問を計画、今年度3社について実施した。内1社については包括連携に向け協議中である。

<p>④ 知的財産活動の推進 岡山大学における知的財産の創造・保護・活用(知的創造サイクル)に関する組織機能の検証を行うとともに、JSTなどの関係機関と連携し、特許出願を戦略的に行う体制を構築する。</p>	<p>岡山大学における知的創造サイクルに関わる組織機能の検証により、①岡山TLOとの関係見直し方針を定め、協議を開始した。②権利化された国際特許の海外での紹介機能を強化すべく米国知財コンサルとの契約を完了し、主に米国企業との折衝力強化を図った。これにより、具体的な研究成果への問い合わせ対応を通じて、知財部門の技術移転(成果有体物の有償譲渡を含む)活動が加速された。③海外企業等を対象とした研究成果情報発信のため、岡大英文HPの充実に着手した。 JSTなどの関係機関と連携し、特許出願を戦略的に行う体制を構築するため、④JST企画事業である「科学技術コモンズ」の立ち上げに協力するとともに、岡山大学関連特許280件の登録を完了した。これにより、産業界への発信力が拡大した。⑤中国等の海外大学や研究機関との共同研究契約締結に注力し、国際共同出願の基本方針を策定し、契約に盛り込んだ。⑥米国New Yorkでの広島大学主催5大学技術紹介Show caseに参画し薬学部の研究成果をPRした。⑦米国における研究型大学の国際貢献ポリシー、活動形態に付いて、米国知財コンサルを介して調査を開始した。⑧平成22年度の知財教育スケジュールを関係機関と協力して作成し、上期5コース、下期5コースの知財教育、上期5コース、下期3コースの知財検索教育、下期6コースの目利き教育を実施した。さらに、企業訪問を含む5コースのOJT教育を設定した。また、知財本部メンバーの能力向上のため、これら教育メニューを始め、知財協会の研修(有料)等に参加させた。⑨企業による特許活用プロセスを強化するため岡大パートナー台帳の作成に着手した。 ⑩知財プロデューサーを核として、外部の技術移転機関、米国知財エージェントなどを含めた「知的財産・技術移転専門チーム(バーチャル)」の構想立案に着手した。 ⑪知財プロデューサーによる年間活動(成果含む)の記録化と分析を開始した。</p>
<p>⑤ 外部研究資金の獲得支援 外部研究資金の戦略的獲得を目指すため、科学技術基本計画等、国の政策と岡山大学が作成する研究戦略マップ等を勘案したプロジェクト提案ができる体制を検討するとともに、外部研究資金獲得支援体制のシステム化を検討する。また、産学連携コーディネーター等による教員と企業の接点形成を促進することで、受託研究、共同研究、寄附金等の増加に努める。</p>	<p>プロジェクト提案体制の強化・構築に向け、①プロジェクト提案体制の強化・構築に向け、グリーンイノベーション、ライフイノベーション等をテーマに、部局長クラスを対象とした国政策の議論の場を設け、各部署の取組みを支援した。 外部研究資金獲得支援体制のシステム化に向けて、②岡山大学における研究推進・産学連携・知的財産に関わる施策体系を整理した。③科研費インセンティブ経費の配分を通して各部署の科研費獲得に向けた活動を支援した。④新任教員スタートアップ支援から、科研費申請書書き方講習、外部資金公募情報提供と申請支援の体制を整備し、さらに共同研究契約支援、知財確保、事業展開までを、産学連携コーディネーターがマンツーマンで支援するシステムを整備中である。⑤産学官連携コーディネーターによる教員への公募事業周知を図るとともに、案件の成熟度および予算規模に応じて適切な事業の紹介を行った。その結果、JSTの「A-STEP」事業に対しては研究の進捗度に応じて応募し、FSステージ・シーズ顕在化タイプ(800万円)に1件、探索タイプ(130万円)に21件が採択された。⑥産学官連携コーディネーターが外部資金獲得作業の一環として企業と接触する過程で、教育分野における産業界の協力を打診するため、産業界の動向や要請内容の調査を行い、人材育成での産学連携も推進した。⑦地域企業との共同研究の促進に向け平成21年度より開始したブレ共同研究から発展した共同研究契約が4件(2,905,000円)の実績となった。⑧各部署における知財研修を行い、技術移転活動による知財収入の拡大を図った。</p>
<p>大学の知恵を社会に周知するため、引き続き、サイエンスカフェ、知恵の見本市を開催するとともに、各部署で実施する社会貢献活動の支援を行う。</p>	<p>市民向け公開講座としてのサイエンスカフェを隔月開催(6回)し、大学の知恵を広く紹介した。このうち1回は岡山駅に近い学外で開催した。また、参加者へのアンケート調査を実施し、希望テーマ等に関するニーズを収集した。 また、岡山大学の研究成果を広く産学官民に紹介するとともに、産学官連携の端緒とする場として「知恵の見本市2010」を開催した。 さらに、学内に設置された「戦略的社会連携・地域貢献ワーキンググループ」に参画し、学内ヒアリング調査、学生アンケート調査、地域の自治体・経済団体等のヒアリング調査、および国内・欧州の大学と自治体等に対するヒアリング調査を実施し、検討を加えた上で、今後岡山大学が取り組むべき方を報告書としてとりまとめた。</p>
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 今年度は第2期中期目標期間の初年度ということもあり意欲的な組織目標を掲げ、その達成に向け研究推進産学官連携機構と研究交流部が一体となって取り組んだ。 その結果ほとんどの組織目標について当初の予想を超えた目標達成ができた自己評価している。 多くの事業を推進しているため、一部の事業について担当者の負担が大きくなっていることもあるが、引き続き事業の推進を図ることが岡山大学の価値向上に向けて必要だと考えている。</p>	<p>市民向け公開講座としてのサイエンスカフェを隔月開催(6回)し、大学の知恵を広く紹介した。このうち1回は岡山駅に近い学外で開催した。また、参加者へのアンケート調査を実施し、希望テーマ等に関するニーズを収集した。 また、岡山大学の研究成果を広く産学官民に紹介するとともに、産学官連携の端緒とする場として「知恵の見本市2010」を開催した。 さらに、学内に設置された「戦略的社会連携・地域貢献ワーキンググループ」に参画し、学内ヒアリング調査、学生アンケート調査、地域の自治体・経済団体等のヒアリング調査、および国内・欧州の大学と自治体等に対するヒアリング調査を実施し、検討を加えた上で、今後岡山大学が取り組むべき方を報告書としてとりまとめた。</p>

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部署の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。